

埼玉県連盟救助隊 机上講習報告 2014.10.20

平成26年10月20日、浦和パルコ10階のコミュニティーセンターで県連救助隊の机上講習を開催いたしました。今回の机上講習の目的は、11月9日に奥多摩岳稜岩で実施する引き上げ、引きおろし、チロリアンブリッジのシステムの事前確認です。

今年度の県連救助隊では、初期捜索や予防に力を入れて活動していますが、今まで蓄積してきたノウハウが断絶してしまうことは大きな損失でもありますので、今回あえて用具の使い方からシステムの設置方法までの確認を行いました。

私自身の考えとしては、現状の山岳救助を取り巻く状況を考えると、たまにしかギアに触らない人達が無理して要救助者に対してリスクのある状況を作り出すことは必要ないと思っています。むしろ民間救助隊にしか出来ない、地味ですが決めの細かい役割の重要性を意識すべきだと思います。ですが引き上げ、引きおろしのギアがあり、なんとなくのノウハウがあると、余計に危ないことが起こりえることも事実です。この机上講習の中でも触れましたが、頸椎や脊髄の損傷によるレスキューデスや重い後遺症を残す結果など、技術より大切と思われる、それ以前の知識も持っておく必要があります。

そうした内容を含め、今までの県連救助隊や合同研修会、救助隊交流集会などで起こった失敗などをいろいろと紹介しました。チロリアンブリッジの傾きでプリーが動かなくなった事例、煩雑なシステムの中でセルフビレイが外された事例、岸壁の縁で不安定に要救助者を持ち上げていた事例、引き上げ時最後ののっこしが出来ずに困った事例、緩めるシステムがない状態で引っ掛かり動かすことが出来なくなってしまう事例、操作ラインに歯のついた器具を残し、ロープを切断する事例、このような様々な失敗を踏まえて今のノウハウがあるので、救助隊員間でこうした積み重ねは共有しておきたいと考えています。

<報告・文責 柴山 利幸>

